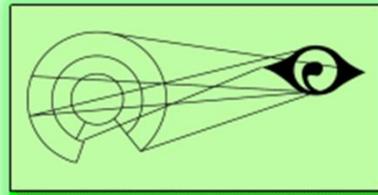


《 説明 》

共同研究について



期日 令和5年(2023年)8月31日(木)

場所 十勝教育研修センター

北海道教育研究所連盟共同研究推進委員会

内容

- 1 北海道教育研究所連盟(道研連)
共同研究について
- 2 第17次共同研究の成果と課題について
- 3 第18次共同研究の概要について

Ⅰ 北海道教育研究所連盟（道研連） 共同研究について

2

Ⅰ 北海道教育研究所連盟（道研連）共同研究について

道研連共同研究とは

- 昭和44年に第1次共同研究が開始
- 道研連に加盟する加盟機関の所員等
によって構成

共同研究推進委員（12名）が推進

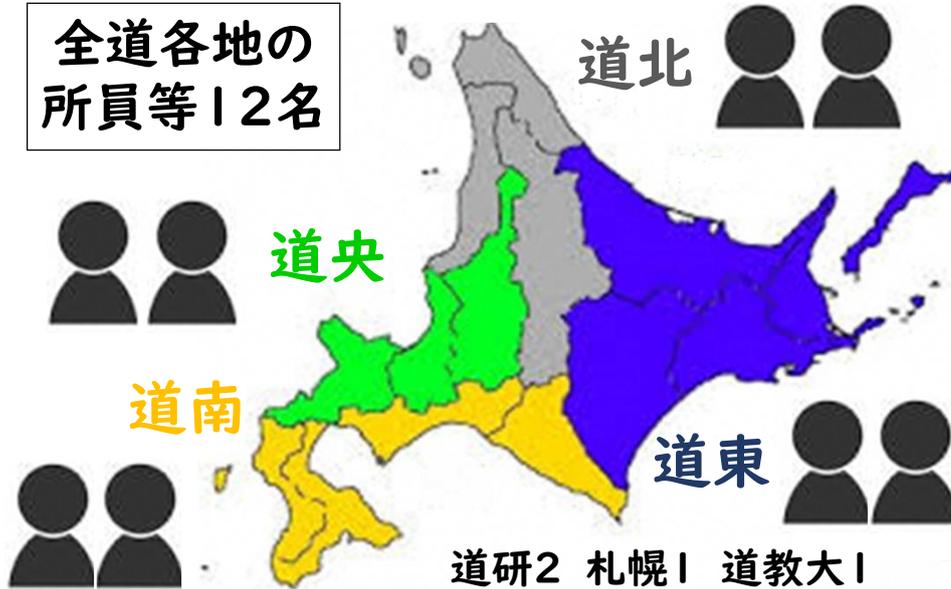


全ての加盟機関が対象

3

共同研究推進委員の選出(H27~)

全道各地の
所員等12名



4

令和5年度の共同研究推進委員

- 石狩教育研修センター
 - 上川教育研修センター
 - 胆振教育研究所
 - 十勝教育研究所
 - 札幌市教育センター
 - 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
 - 後志教育研修センター
 - 留萌管内教育研究所
 - 室蘭市教育研究所
 - 釧路教育研究所
- から各1名
- 北海道立教育研究所から2名

5

2 第17次共同研究の成果と課題について

6

2 第17次共同研究の成果と課題について

研究主題

学びに向かう力の育成に向けた
指導と評価の在り方

7

2 第17次共同研究の成果と課題について

研究のねらい

各教育研究所・研修センターが学校支援のために活用する、**学習指導**や**学習評価**に関する**実践事例の収集・提供**や**参考資料の作成**により、学びに向かう力の育成に向けた授業力の向上に資する。

研究内容1

学びに向かう力の育成に向けた**学習指導**

研究内容2

主体的に学習に取り組む態度を見取る**学習評価**

8

2 第17次共同研究の成果と課題について

研究内容

- (1) 学びに向かう力の育成を目指した指導計画及び評価事例の作成
- (2) 各教育研究所・研修センターが所管する域内の学校における実践事例の収集
- (3) 「**指導案バンク**」の作成・運営
※学びに向かう力の育成に向けた指導計画や実践事例等についての相互交流の場とする。
- (4) 実践事例を基にした**リーフレット**の作成

9

2 第17次共同研究の成果と課題について

○第17次共同研究の成果

「学びに向かう力の育成に向けた指導と評価の在り方」

- ① 実践に基づいた単元の指導計画やワークシート、評価の実際等を指導案バンクに掲載することができた。
- ② 評価の場面を精選した指導計画を構想したことにより、指導と評価の一体化がなされ、教職員の負担軽減や授業観の転換がなされた。
- ③ ルーブリックを作成することにより、教師の指導の方向性が明確になり評価の方針を子どもと共有することで、子どもが見通しや目標をもったり振り返りが充実したりし、子どもの学習への満足感が高まった。
- ④ ルーブリックの作成において、B基準とA基準の違いを明確にすることや、C基準の表記の仕方など、評定の在り方について、共同研究推進委員の中で共通見解をもつことができた。
- ⑤ 個に応じた指導の充実に向けて「努力を要すると判断される」状況(C)の子どもにどのような支援を行うか協議を重ね、理解を深めることができた。
- ⑥ 各教育研究所・研修センターが所管する域内の学校における実践事例やルーブリックの考え方についての参考資料としてリーフレットを作成した。

10

2 第17次共同研究の成果と課題について

○第17次共同研究の成果

道研連



北海道教育

メニュー

- 道研連の概要・事業計画
- 研修会・研究発表大会
- 共同研究
- 加盟機関一覧
- キャビネット
- リンク
- 在宅勤務、校内研修等で活用できる
- 指導案バンク

共同研究

加盟機関が共同で実施する「共同研究」に関する資料を掲載しています。共同研究は、加盟機関の所員等によって構成されている「共同研究推進委員会」が中心に推進しています。

○第17次共同研究に係るリーフレット (R4 8月1日掲載)
リーフレットP1~P4 リーフレットP5~P8

○第17次共同研究について (令和2年度~4年度) [指導案バンクはこちら](#)

○第16次共同研究について (平成29年度~31年度)

○第15次共同研究について (平成26年度~28年度)

○「教員研修に係るアンケート」集計結果について

○第15次共同研究に係る加盟機関及び域内における実践 (平成27年度)

石狩教育研修センター 空知教育センター 後志教育研修センター 渡島教育研究所 胆振教育研究所
十勝教育研究所 上川教育研修センター 留萌管内教育研究所 札幌市教育センター 岩見沢市立教育研究所

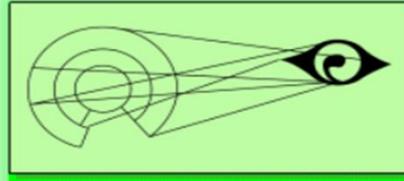
11

2 第17次共同研究の成果と課題について

○第17次共同研究の成果

北海道教育研究所連盟 共同研究推進委員会 第17次共同研究 リーフレット

学びに向かう力の育成に向けた 指導と評価の在り方



北海道教育研究所連盟

主題設定の理由

北海道教育研究所連盟（以下、道研連）に加盟する所員対象の研修会等で、「学校が必要としている支援」は何かを協議しました。結果、全道の教育研究所・研修センターが作成した実践事例の紹介や道内の学校の実践の集約、指導計画例の作成等を行い、加盟機関で共有したいという声が多く挙がりました。

中でも、学習指導や学習評価の研究は、現場の先生のニーズに応えられること、特に「学びに向かう力」は、知識・技能や思考力・判断力・表現力等と比べ、指導や評価のイ

2 第17次共同研究の成果と課題について

○第17次共同研究の成果

メニュー

- 道研連の概要・事業計画
- ▶ 研修会・研究発表大会
- 共同研究
- ▶ 加盟機関一覧
- ▶ キャビネット
- ▶ リンク
- ▶ 在宅勤務、校内研修等で活用できる資料
- ▶ **指導案バンク**

指導案バンク

① 学びに向かう力の育成に向けた指導計画

作成

共同研究推進委員会が作成した、学びに向かう力の育成に向けた指導計画を全道で共有

[詳しくはこちら](#)

② 研究会等の実践

収集

各研究所・センターの過去及びこれから発行する紀要等に載っている指導案のデータを、指導案バンクに載せ、全道で好事例を共有

[詳しくはこちら](#)

研修コンテンツ一覧

在宅勤務、校内研修等で活用できる資料

指導案バンク

2 第17次共同研究の成果と課題について

○第17次共同研究の成果

指導案バンク

①学びに向かう力の育成に向けた指導計画

各研究員が実践した、学びに向かう力の育成に向けた指導計画を掲載しています。

②研究会等の実践

各研究所・センターの過去及びこれから発行する紀要等に掲載している指導案のデータを、指導案バンクに掲載し、全道で好事例を共有します。

現在も、指導案のデータを定期的に収集しています。研究会等で実践した事例がございましたら、ぜひ事務局まで御連絡ください。実践を通じた貴重な指導案は、全道の先生方にとって参考となり、よりよい教育実践につながるはずです。

①学びに向かう力の育成に向けた指導計画

令和2・3年度の共同研究推進委員会が、学校での実践に基づき、児童生徒の学びに導計画を作成しました。

いずれの指導計画も、「単元の目標」「単元の評価規準」「指導と評価の計画（主体的に学習に取り組む態度）の評価の実現」で構成されています。特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の実現が示されています。また、令和3年度作成分についての学びの工夫が掲載されています。授業づくりの参考にぜひ御活用ください。

教科	学年	単元名（題材名）	キーワード
1	国語 小学校 第1学年	びんこのようすをくらべて よもう「スイスイ」（C読むこと）	毎時間の振り返りによる「主体的に学習に取り組む態度」の評価
2	国語 小学校 第1学年	たのしかったことをかこう （B書くこと）	振り返り学習による確実な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を目指す学習指導
3	国語 小学校 第1学年	くりかえしに気をつけてと うじょう人物の様子を読む	児童が想像を高め、持続で読スよめた場面全体を把握

②研究会等の実践

教科	学年	単元名（題材名）	作成機関	年度	閲覧
1	音楽 中学校 第1学年	歌曲のよさを味わおうー『魔王』（シューベルト）ー	北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター	R2	閲覧
2	音楽 中学校 第1学年	音楽における「川」の表現に挑む	北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター	R2	閲覧
3	音楽 小学校 第3学年	打楽器で思い通りに音を出そう	北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター	R2	閲覧
4	国語 小学校 第5学年	「生き物は円柱形」（読むこと）	後志教育研修センター	R2	閲覧
5	算数 小学校 第6学年	「速さ」	後志教育研修センター	R2	閲覧

2 第17次共同研究の成果と課題について

第17次共同研究において、もっと知りたかった内容(一部抜粋)

- ・ 「個別最適な学び」、「協働的な学び」の実践に向けた具体と主体的に学習に取り組む態度との結び付き
- ・ 指導案バンクの活用
- ・ ルーブリックの評価項目の設定の仕方や実際の評価事例
- ・ ICTを活用した実践事例
- ・ 授業実践例のより詳しい内容

2 第17次共同研究の成果と課題について

○第17次共同研究の課題と今後に向けて

- ① 研究を進める上での具体的な業務内容の見通しがもてるようにする必要がある。
- ② 実践事例の収集や、教育実践の共有等、具体的な業務推進について明確にする必要がある。
- ③ 共同研究推進委員の一存で、できることとできないことがあるため、負担感のない業務推進にする必要がある。
- ④ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業について、取組のイメージを共有し、また、多くの事例を集めるだけでなく、分析してポイントを絞っていく必要がある。
- ⑤ 各学校においてICT活用のための環境整備の支援は今後もニーズがあるので、効果的な支援の取組を共有する必要がある。
- ⑥ リーフレット及び指導案バンクは教員からのニーズがあるので、継続して掲載しておく必要がある。

16

3 第18次共同研究の概要について

17

3 第18次共同研究の概要について

子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

【ポイント】

- ✓ これらの資質・能力を育むためには、**新学習指導要領の着実な実施**が重要
- ✓ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用**が必要不可欠

**全ての子どもたちの可能性を引き出す
個別最適な学びと、協働的な学び**

出典：「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」【総論解説】 令和3年 中央教育審議会

3 第18次共同研究の概要について

2020年代を通じて実現を目指す学校教育
「令和の日本型学校教育」の姿

✓ **全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現**



子供の学び

- ✓ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている
 - ✓ 各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている
- #個別最適な学び #協働的な学び
#主体的・対話的で深い学び #ICTの活用



教職員の姿

- ✓ 環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
- ✓ 子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
- ✓ 子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている

#教師の資質・能力の向上 #多様な人材の確保 #家庭や地域社会との連携
#学校における働き方改革 #教職の魅力発信 #教職志望者の増加



子供の学びや
教職員を支える環境

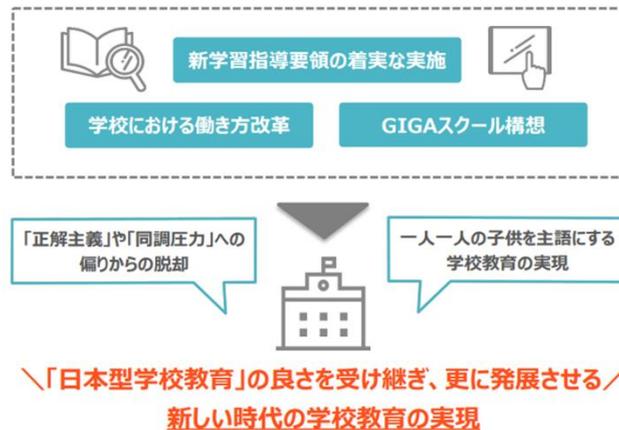
- ✓ ICT環境の整備により全国の学校で指導・支援の充実、校務の効率化等がなされている
- ✓ 新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている
- ✓ 人口減少地域においても魅力的な教育環境が実現されている

#ICT環境の整備 #学校施設の整備
#少人数によるきめ細かな指導体制

出典：「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」【総論解説】 令和3年 中央教育審議会

3 第18次共同研究の概要について

第18次共同研究テーマ



一人一人の子どもを主語にする
学校教育の実現に向けて

3 第18次共同研究の概要について

一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて

【ねらい】

各教育研究所・研修センターがより連携・協働できる体制を整備し、学校支援のために活用する、個別最適な学びと協働的な学びの実践事例の収集・提供をすることにより、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての教職員の能力の向上に資する。

【研究内容1】

全ての子どもたちの可能性を引き出す
「個別最適な学び」と「協働的な学び」

【研究内容2】

子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

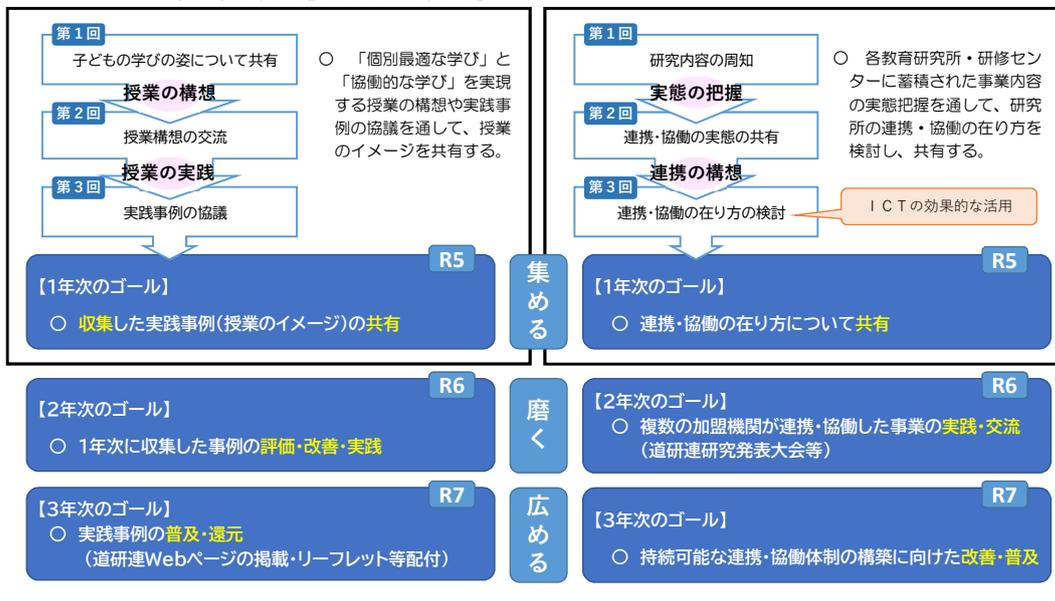
道研連加盟機関である各教育研究所・研修センターの

一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

子どもの主体的な学びを
支援する伴走者として

研究内容1 全ての子どもたちの可能性を引き出す
「個別最適な学び」と「協働的な学び」

研究内容2 子どもの成長を支える連携・協働体制の構築



3 第18次共同研究の概要について

全ての子どもたちの可能性を引き出す
「個別最適な学び」と「協働的な学び」

(1) 「個別最適な学び」に関する授業実践例

ア 指導の個別化

子ども一人一人の特性・学習進度・学習到達度に
応じた指導方法・教材等の工夫

イ 学習の個性化

子ども一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向
性に応じた学習活動や課題に取り組む機会の設定

(2) 「協働的な学び」に関する授業実践例

多様な他者と協働し、異なる考え方が組み合わさり、
よりよい学びを生み出す学習活動や場面の設定

3 第18次共同研究の概要について

個別最適な学び

個別最適な学び【学習者視点】（=個に応じた指導【教師視点】）

子どもが自己調整しながら学習を進めていく

指導の個別化



自ら学習を調整

子ども一人一人の特性・
学習進度・学習到達度

必要に応じた
重点的な指導、
指導方法等の工夫

学習内容の確実な定着

※ 一定の目標を全ての子どもが達成することを
目指し、異なる方法等で学習を進める

学習の個性化



自ら学習を調整

子ども一人一人の興味・関心・
キャリア形成の方向性等

一人一人に
応じた学習活動・
学習課題の提供

学習を深め、広げる

※ 異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

24

参考：令和4年度小・中学校教育課程編成の手引【総則編】北海道教育委員会

3 第18次共同研究の概要について

協働的な学び

協働的な学び

探究的な学習や体験活動などを通じ、多様な他者と協働する



一人一人の
よい点・可能性

多様な
他者と協働

クラスメイト
異学年・他校の子ども
地域の方々
専門家

- ICTの活用により、児童生徒一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動
- 多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動
- 遠隔地の専門家とつないだ授業
- 他の学校・地域や海外との交流



※ 同時に、同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことや、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことが重要

異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す

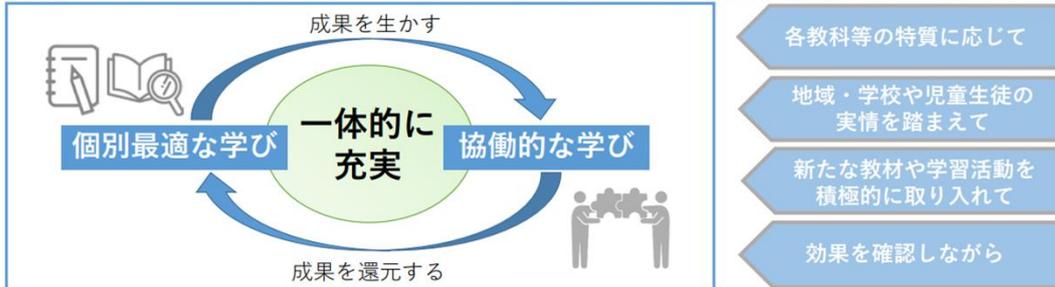
参考：令和4年度小・中学校教育課程編成の手引【総則編】北海道教育委員会

25

3 第18次共同研究の概要について

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

実際には、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わさって実現されていくことが多い



主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

持続可能な社会の創り手

参考: 令和4年度小・中学校教育課程編成の手引【総則編】北海道教育委員会

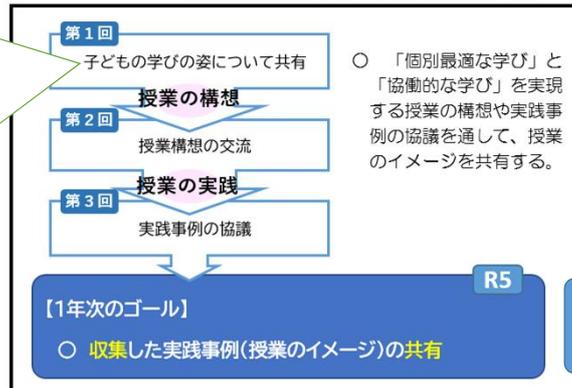
3 第18次共同研究の概要について

【参考動画】

子どもの主体的な学びを実現する中学校でのクラウド活用（春日井市立高森台中学校）



研究内容1 全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」



○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業の構想や実践事例の協議を通して、授業のイメージを共有する。

集める

【2年次のゴール】

○ 1年次に収集した事例の**評価・改善・実践**

磨く

【3年次のゴール】

○ 実践事例の**普及・還元**
(道研連Webページの掲載・リーフレット等配付)

広める

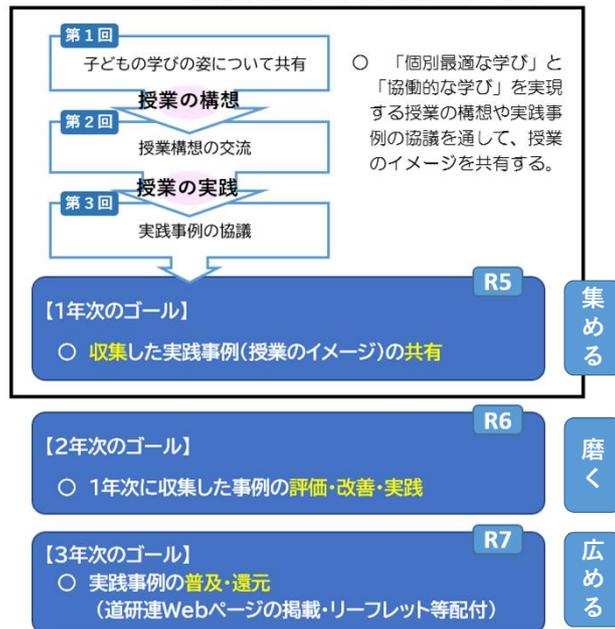
3 第18次共同研究の概要について

- 動画における授業のイメージ
 - ・ 生徒が、自分のペースに合わせて学習している。
 - ・ 生徒同士の対話により、授業が進んだり、課題解決したりしている。
 - ・ アウトプットを中心とした主体的な学びになっている。
 - ・ 端末の機能を存分に生かしている。
- このような授業においてポイントとなりそうなこと
 - ・ 教員間で授業のイメージを共有すること。
 - ・ 一人一人が学習に向かうための目的意識のもたせ方。
 - ・ 児童生徒のコメントの生かし方。
 - ・ 個人のペースで進められるが、それが難しい子どもへの支援や子ども同士の助け合いが必要。

28

3 第18次共同研究の概要について

研究内容 1 全ての子どもたちの可能性を引き出す
「個別最適な学び」と「協働的な学び」



29

3 第18次共同研究の概要について

【道研連夏季所員学習会】7月28日(金)開催

学習会のねらい

教育研究所・センター所員等の現状について交流を行い、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業について理解を深めるとともに、研修したことを域内の学校に広げるための研修等に役立てる。

内 容

【講義】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業について（100分）

【講師】北海道立教育研究所長 中澤美明
内容

- 今、求められている授業とは
- 子どもが自分(たち)で学び取る力を育成するために

【交流】目指す授業像について（60分）

内容

- これまでの授業を「目指す授業像」に近付けるためには

【振り返り】学習会での学びを各教育研究所やセンターの取組につなげるために（15分）

- 所員として、何ができるか

ねらいの達成に向けた方策

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業の在り方について、先進的な事例を基に、今後に向けた授業の方向性について考えます。

これまでの授業を「目指す授業像」に近付けるために、域内の課題を想起し、課題解決の方策について考えることを通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業についての理解を深めます。

本学習会で学んだことを、今後の取組にどう生かすか、どう繋げていくかを考える時間とします。

30

3 第18次共同研究の概要について



個別最適な学び

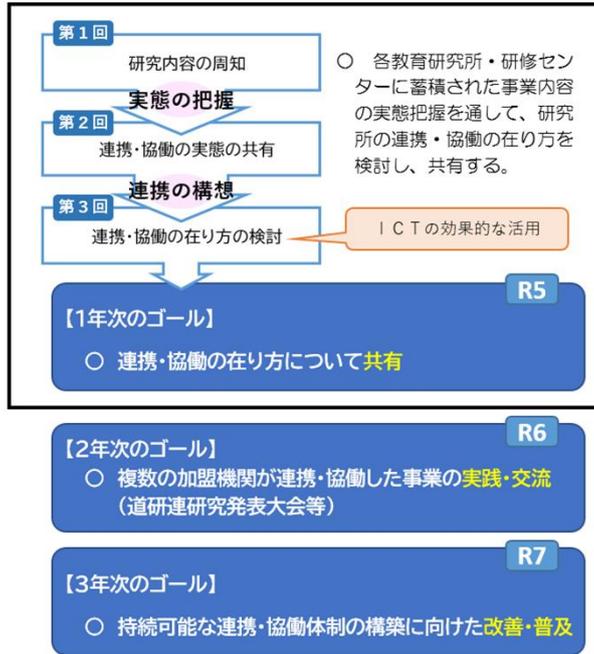
子どもが
主体的に活用

※帯広市教育研究所から資料提供



3 第18次共同研究の概要について

研究内容2 子どもの成長を支える連携・協働体制の構築



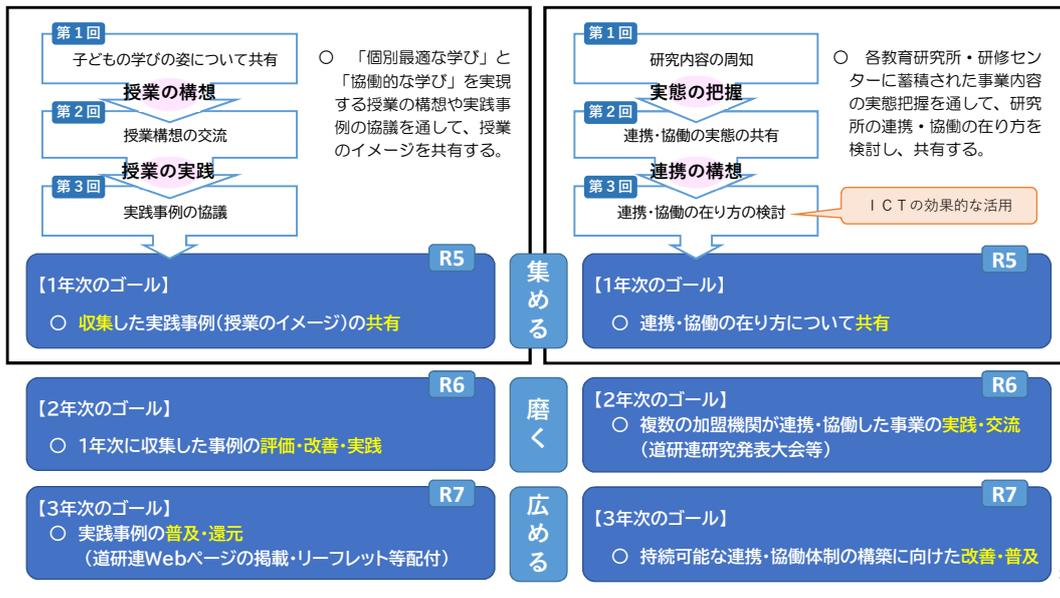
北海道教育研究所連盟第18次共同研究（令和5年度～令和7年度）推進計画

一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

子どもの主体的な学びを
支援する伴走者として

研究内容1 全ての子どもたちの可能性を引き出す 「個別最適な学び」と「協働的な学び」

研究内容2 子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

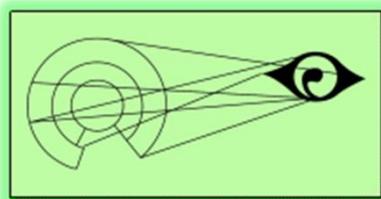


【説明・協議2】第18次共同研究1年次に係る業務推進について 年間スケジュールについて	
5月12日(金)	【第1回 共同研究推進委員会】※オンライン
6～10月	・授業の構想 ・各教育研究所・研修センターに蓄積された実践等の実態の把握
7月28日(金)	夏季所員学習会
8月31日(木) 9月1日(金)	【第78回北海道教育研究所連盟研究発表大会(十勝大会)】 ・研究発表
10月20日(金)	【第2回 共同研究推進委員会】※オンライン ・収集する実践事例の方向性(形式や内容等)の確認 ・複数の研究所・センターが連携した取組に係る協議
11月24日(金)	冬季所員学習会
11月～12月	・授業の実践
1月12日(金)	【第3回 共同研究推進委員会】※オンライン ・収集した実践事例を道研連加盟機関に共有 ・連携・協働体制や連携した実践内容の方向性の確認 ・第18次共同研究2年次に向けて
2月7日(水)	【連盟委員会】R5事業報告 R6事業計画提案

34

《 説明 》

共同研究について



期日 令和5年(2023年)8月31日(木)

場所 十勝教育研修センター

北海道教育研究所連盟共同研究推進委員会